

# 第1章 調査概要

## 1.1. 調査の目的と背景

本調査は、ICT を活用した社会的インパクト評価を行うためのソフトウェア等のツール（以下「ICT ツール」という。）について、ウェブページ等による情報収集及びヒアリング調査により幅広く情報を収集し、民間公益活動の社会的インパクト評価を行う際に参考となる情報を提供することを目的とする。

社会的インパクト評価とは、社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えることである。ここで、社会的インパクトとは、短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の成果として生じた社会的、環境的なアウトカムをいう。近年では、経済状況の変化を受けて、資金の出し手において、これまで以上に成果を求める動きが国際的な流れとなっており、社会的インパクト評価へのニーズが高まっている。また、平成28年12月には、休眠預金等活用法が成立し、同法では、休眠預金等を活用した成果に係る評価の実施が求められており、社会的インパクト評価の活用も想定される。

しかしながら、社会的インパクト評価を行うためには、一定程度の評価に関する工数負担が必要という課題があり、専門的知見や技能も必要となる。社会的インパクト評価に関する知見を蓄積して公開すること、教育機会の提供等による教育や文化の醸成や、評価の工数の軽減のために、ICT ツールを導入することが一つの解決策として有用と考えられる。また、活動分野などの分類ごと、事業規模別に標準化された ICT ツールについても、評価の比較可能性や統一性等の観点から検討することが重要である。

そこで、本調査では上記のような目的と背景を踏まえ、ICT ツールの調査を実施し、その課題と解決策についてまとめた。

## 1.2. 調査の進め方

本調査は、ICT ツールについて、ウェブページ等による情報収集及びヒアリング調査により幅広く情報を収集した。さらに、ICT ツールによる社会的インパクト評価を実施するに当たっての今後の課題の特定及び解決策の提示も行った。

図表 1 調査の進め方

	概要	詳細
①	調査対象分野の明確化	幅広い民間公益活動の中から本調査の対象分野を明確にした。
②	ウェブページ等による ICT ツールの洗い出し (46 件)	ICT ツールの洗い出しを行うため、社会的インパクト評価に関する情報が集約されているウェブページやレポートから広範囲な検索を実施した。また、重要な漏れや誤りがないうよう、有識者による確認を行った。その結果、46 件の ICT ツールを検出した。
③	調査対象とする ICT ツールのサンプル抽出 (10 件)	調査対象とする ICT ツール抽出の観点を有識者との意見交換を踏まえ策定した。その結果、上記②で洗い出された 46 件の ICT ツールのうち、調査対象とする ICT ツール 10 件をサンプル抽出した。
④	ウェブページ等による情報収集	上記③で抽出した調査対象とする ICT ツール 10 件について、ウェブページやレポートより情報収集した。
⑤	ヒアリング調査	上記④ウェブページ等による情報収集では不足する部分につき、ICT ツール提供者、ICT ツール利用者、有識者へのヒアリングを行った。
⑥	課題の特定及び解決策の提示	上記④ウェブページ等による情報収集及び上記⑤ヒアリング調査を踏まえ、ICT ツールを活用した社会的インパクト評価を実施する際の課題の特定及び解決策を提示した。

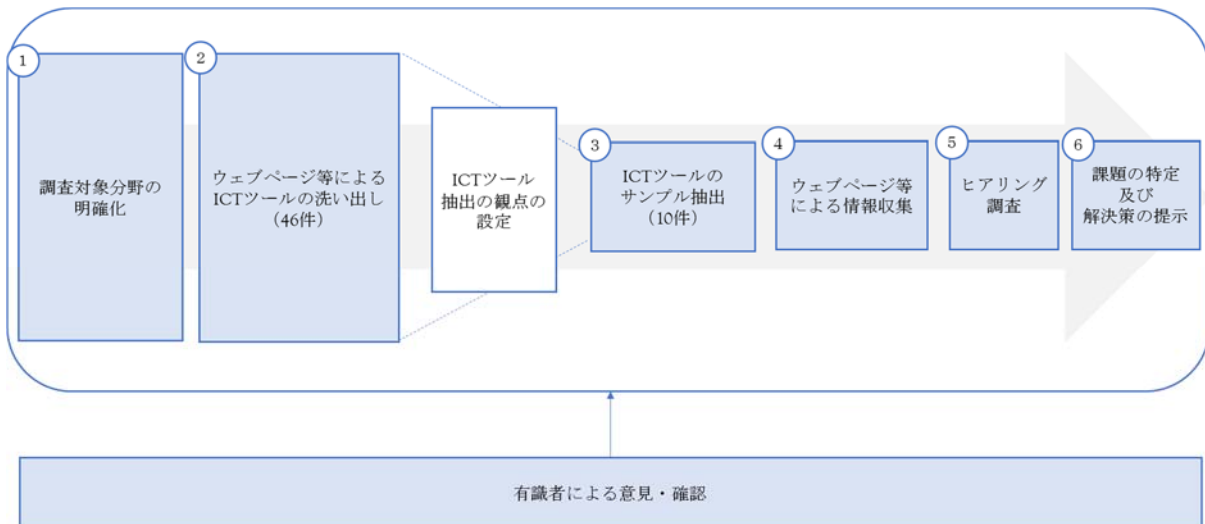
### 1.3. 作業概要と実施体制

本調査の作業概要及び調査の流れは下記図表 2 及び図表 3 のとおりである。

図表 2 調査の作業概要

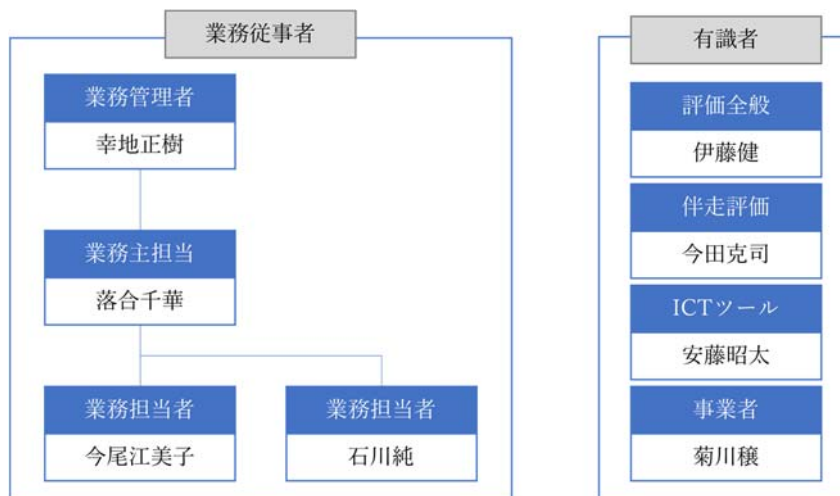
作業項目	1月		2月				3月			
	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週
<b>プロジェクト管理</b>										
調査実施計画の策定	1月25日									
キックオフ	1月25日									
中間報告							3月7日			
最終報告										3月30日
メール・電話等でのやり取り(適宜)										
<b>調査対象分野の明確化</b>										
調査対象分野の調査										
調査対象分野の決定										
<b>ウェブページ等によるICTツールの洗い出し</b>										
ウェブページ等によるICTツールの洗い出し(一覧表作成)										
<b>調査対象とするICTツールのサンプル抽出</b>										
ICTツール抽出の観点の設定										
ICTツール抽出の観点に関する有識者との意見交換										
ICTツールのサンプル抽出										
<b>ウェブページ等による情報収集</b>										
調査項目の決定										
ウェブページ等による情報収集										
有識者との意見交換										
コラムの作成										
<b>ヒアリング調査</b>										
ヒアリング候補の選定										
ヒアリング候補との日程調整										
ヒアリング実施										
ヒアリングの内容まとめ										
有識者との意見交換										
<b>課題の特定及び解決策の提示</b>										
課題の抽出と整理										
解決策の提示										
有識者との意見交換										
<b>成果物の作成</b>										
中間報告書の作成										
最終報告作成										

図表 3 調査の流れ



本調査の人員体制は下記図表4のとおりである。

図表 4 調査の人員体制



人員体制の役割分担は下記図表5のとおりである。

図表 5 役割分担

業務従事者				
No.	役割	氏名	役割分担	
1	業務管理者	幸地正樹	本調査の責任者として、成果物の品質責任を負い、業務主担当へ指示を行う。	
2	業務主担当	落合千華	本調査の主担当として、内閣府との窓口、業務の推進、業務担当者への指示を行う。	
3	業務担当者	今尾江美子	業務主担当の指示に従い、本調査の推進を支援する。	
4	業務担当者	石川純	業務主担当の指示に従い、本調査の推進を支援する。	
有識者				
No.	役割	氏名	組織・役職	役割分担
1	評価全般	伊藤健	Asian Venture Philanthropy Network 地域統括（東アジア）／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任講師	社会的インパクト評価に精通するとともに、国内外の評価関係者とのネットワークを有しており、本調査へ専門知識や知見を活かした助言を行う。
2	伴走支援	今田克司	一般財団法人CSOネットワーク 代表理事／認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 常務理事	非営利組織の中間支援団体として、非営利組織の現場に関する知見や伴走支援型評価に精通しており、本調査へ専門知識や知見を活かした助言を行う。
3	ICT ツール	安藤昭太	株式会社カルミナ 代表取締役	非営利組織向けのICTツールに精通しており、本調査へ専門知識や知見を活かした助言を行う。
4	事業者	菊川穰	一般社団法人エル・システムジャパン 代表理事	事業者（非営利組織）として社会的インパクト評価を複数年実施しており、本調査へ専門知識や知見を活かした助言を行う。